高松港湾域の上部更新統土の繰返し変形・強度特性

愛媛大学工学部	フェロ	ー会員〇	森伸	一郎
愛媛大学工学部	学	生会員	河田	浩介
高松港湾空港技術調査事	務所	正会員	下元	幸夫
東建ジオテック		正会員	田仲	伊一

1. はじめに

本研究では高松港湾域で採取された上部更新統土の不攪乱試料を用いて繰返し変形特性試験を行い,変形 特性と拘束圧や物理特性との関係を検討した.また,繰返し強度試験を行った.

2. 試料

本研究では香川県高松市の高松港湾域で採取され た不撹乱試料を用いて試験を行った.表-1に不撹乱 試料の物理特性を示す.図-1に粒径加積曲線を示す. 使用した試料のうち細粒分含有率が 50%以上の試 料は地盤工学会基準の大分類により粘性土に分類さ れ、それ以外の試料は砂質土に分類される. また砂 分を 50~80 %含み, 塑性指数 IP が NP~30 までの 土は中間土と定義されており、この定義によれば先 ほど砂質土に分類した試料のうち B-41 を除く試料 が中間土に分類される.表-2にS波速度とせん断剛 性の表を示す.表には試料の深さ,原位置での拘束 圧,繰返し変形特性試験で行った拘束圧とS波から 求めたせん断剛性 G*, 試験により求めたせん断剛性 を示している. 概ねS波から求めた剛性と試験で求 めた剛性が近い値を示しており、試験品質は高い. また B-12 の試料に関しては拘束圧 200kPa でのみ試 験を行っているのでGは大きい値を示している.ま た本研究使用した試料の地質年代は B-2, B-7A は完 新世のものでそれ以外は後期更新世のものである.

3. 実験方法

本研究では油圧制御方式中空ねじり試験機を用い た.供試体はサンプルチューブから押し出した直径 8 cmの試料を切り出し、トリミング法により外径 7 cm,内径 3 cm,高さ 12 cmの中空円筒状に作製した. 飽和は CO₂置換後,脱気水を通水させ背圧をかけて 行った.圧密は等方圧密で供試体側面に設置したろ 紙により圧密促進をした.また圧密終了は 3t 法によ り決定した.圧密終了後,地盤工学会基準によりス テージテストを行った.試験中のねじり変位は上蓋 の回転角度ポテンショメータ,微小変位ギャップセ

表-1 不攪乱試料の物理特性

試料名	湿潤密度 ρ _t (g/cm ³)	塑性 指数 I _P	細粒分 含有率 F _C (%)	粘土分 含有率 P _C (%)	間隙比 e
B-2	2.094	19.4	30.7	15.0	0.49
B-7A	2.021	24.1	32.4	19.5	0.57
B-12	1.878	9.8	40.3	8.5	0.77
B-26B	1.863	30.1	41.0	12.3	0.91
B-29	1.752	35.0	83.2	50.5	1.30
B-33B	1.955	15.2	35.3	15.0	0.57
B-41	2.008	NP	20.1	8.6	0.58



表-2 S 波速度とせん断剛性

試料名 試料 二端 二端 の 深さ(m)	試料上端 原位	原位置の 拘束圧	の 試験時の F 拘束圧	S波速度	せん断剛性	
	(kPa)	(kPa)	(m/s)	G*(MPa)	G(MPa)	
B-2	19.76	41	50	202	85	49
B-7A	20.36	51	50	202	82	56
B-12	21.86	69	200	182	62	95
B-26B	24.14	95	100	182	62	76
B-29	24.56	100	100	163	47	45
B-33B	25.25	103	100	163	52	65
B-41	26.47	117	100	201	81	76
※C*けて波法度とり質用したけ/ 新剛州						

※G*はS波速度より算出したせん断剛性

キーワード 変形,強度,不攪乱,更新統

連絡先 790-8577 愛媛県松山市文京町3 愛媛大学大学院理工学研究科 環境建設工学コース mori@dpc.ehime-u.ac.jp

ンサーを併用して測定した.また本研究では多段階 拘束圧載荷法により試験を行った.

4. 繰返し変形特性の結果と考察

図-2 に例として B-2 のせん断剛性 G, 減衰比 h と せん断ひずみγの関係を示す. 図中のプロットされ ている点は実験値であり、実線は双曲線モデルによ ってフィッティングしたものである. また塗りつぶ しがGで、白抜きがhである.図より、拘束圧の増 加に伴い G が増加していることがわかる. y =0.001%より大きい γ では、 拘束圧の増加に伴い僅 かではあるがhが低下していることがわかる.この ことから、この試料はGとhに拘束圧依存性がある といえる.この傾向は他のすべての試料においてみ ることができた. 図-3 に B-2 の G~σ²の関係を示 す. 様々なせん断ひずみでの G の拘束圧依存性を検 討するために,図には複数のせん断ひずみにおける G~σ_c'の関係を示している.図より, せん断ひずみ が大きくなるとGと σ 。"の直線の傾き a が増加する ことがいえる.この関係は他の試料に関しても同様 のことがいえた. 図-4 に G~F_cの関係を示す. 塗り つぶしが $\gamma = 0.001$ %のときの G で, 白抜きが γ =0.01 %のときの G である(以下同様). 図より, F_c の増加に伴い G が低下しており, せん断ひずみが小 さいほどその影響は大きい.

繰返し強度特性

物理試験からは粘性土質砂に分類される上部更新 統砂層 Ds 層の土(B-12, 13, 15: CDL-21.8~-22.9m) について中空ねじり試験により繰り返し強度試験を 行った.図-5 に繰返し強度曲線を示す.DA=5%で見 ると,Nc=20 で繰返し強度比は 0.36 となる.N値が 小さい¹⁾割には,液状化強度はそれほど小さくない. また,三軸試験による強度よりやや大きい値を得た.

6. 結論

本研究で得られた知見は以下の通りである. (1)せん断剛性の拘束圧の累乗に比例するが,累乗数 はせん断ひずみが大きくなるほど増加する. (2)せん断剛性は細粒分含有率,粘土分含有率,間隙 比が増加するほど低下する.

(3)液状化強度はN値が小さい割には小さくない.

参考文献

 田仲 伊一,森 伸一郎,河田 皓介,下元 幸夫: 高松港湾域の上部更新統土の土質特性,第61回土木 学会年次学術講演会,2006(掲載予定)

